

# 筑後



久留米支局 千830-0022  
 久留米市城南町22-10 ☎0942-32-2121 Fax 31-7260  
 大牟田通信部 0944-53-5551 Fax 53-5559  
 柳川通信部 0944-72-4749 (Fax 兼用)  
 西部本社 千810-8581  
 福岡市中央区赤坂1-16-5 社会部 ☎092-715-5641

購読は ☎0120-4343-81

筑後読売会 0942-53-0022 Fax 53-0025  
 【広告】092-741-8972  
 【折り込み】久留米0942-44-8621  
 筑後0942-53-6458  
 大牟田0944-52-1195

## 青木繁旧居にレリーフ

### 久留米「海の幸」韓国男性が寄贈

久留米市出身の洋画家・

話している。

青木繁(1882~1911年)の代表作で、国重要文化財「海の幸」のレリーフが同市荘島町の青木繁旧居に設置され、29日、除幕式が行われた。「海の幸」に感銘を受けた韓国・光州市立美術館名誉館長の河正雄さん(76)(埼玉県川口市)が制作、寄贈した。旧居保存会は「青木が結んだ交流を大切にしたい」と

話している。レリーフはブロンズ製で、縦72センチ、横180センチ、厚さ4センチ、重さ75キロ。計5枚制作したうちの1枚で、これまでに韓国の美術館や「海の幸」が描かれた千葉県館山市の小谷家住宅などに寄贈された。河さんは在日韓国人で、画家を志望していたが、家庭の事情で断念。電器店経営の事業に成功し、絵画作



レリーフを囲む河さん(左)と愛沢代表(左から2人目)、荒木会長

品を収集している。「海の幸」を見て「汗と海のおいが充満し、労働の喜びが表現されている」と感動したという。

昨年、戦後70年関連行事で館山市を訪れた河さんは、日韓国交正常化50周年の美術交流として両国にレリーフを設置することを提案、制作費などの支援を申し出た。

除幕式には河さんのほか、レリーフの受け入れ窓口になったNPO法人「安房文化遺産フォーラム」(館山市)の愛沢伸雄代表や久留米市の榎原利則市長も参加。河さんは「韓国と近い九州に設置できてうれしい。美術の交流を通じて日韓の新しい時代を迎えたい」と喜んだ。

旧居は青木繁が上京する17歳までを過ごした家で、市民有志の保存運動が実を結び、2003年から

公開されている。保存会の荒木康博会長は「多くの方の支援ですてきなレリーフを飾ることができた。韓国との未永い文化の懸け橋となることを期待したい」と話していた。